

和子牛の人工ほ乳技術 ～ゆっくり離乳で発育改善～

【背景・目的・成果】 超早期母子分離した和子牛の人工ほ乳において、離乳前後に発育停滞を起こす子牛が散見され問題となっています。要因の一つとして、離乳に向けての代用乳の漸減期間の長さが考えられていることから、発育停滞を防止できる代用乳の漸減期間を検討しました。

その結果、代用乳の漸減期間を現状の1週間から4週間に延長すると、発育停滞を予防でき、スムーズに離乳できることを実証しました。

■試験の実施

【方法】 8週齢から代用乳を漸減して離乳します。
漸減期間で3グループに分けて、発育を比較しました。

試験区	代用乳の漸減期間(離乳時の週齢)
1週間	1週間(9週齢で離乳)
2週間	2週間(10週齢で離乳)
4週間	4週間(12週齢で離乳)



【成績】

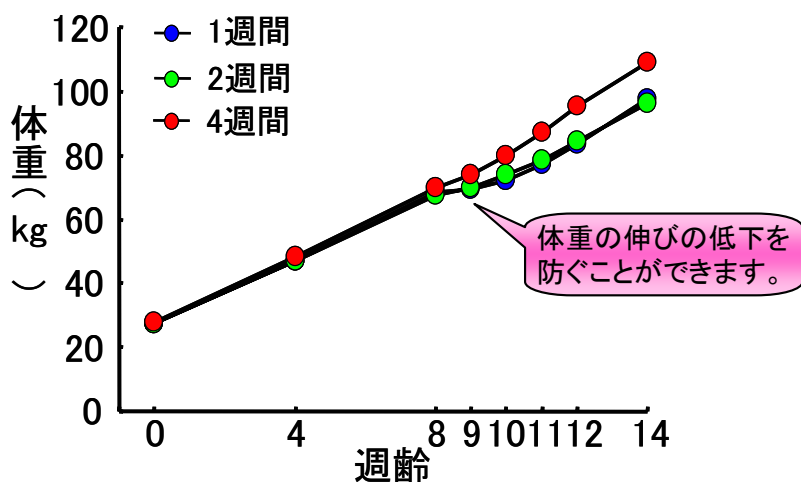


図1 体重の推移

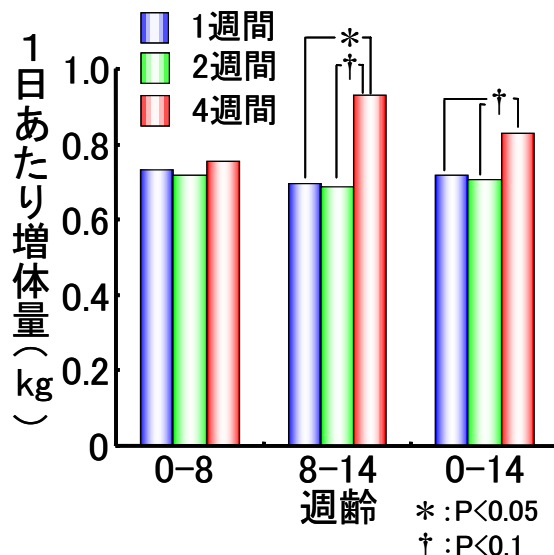
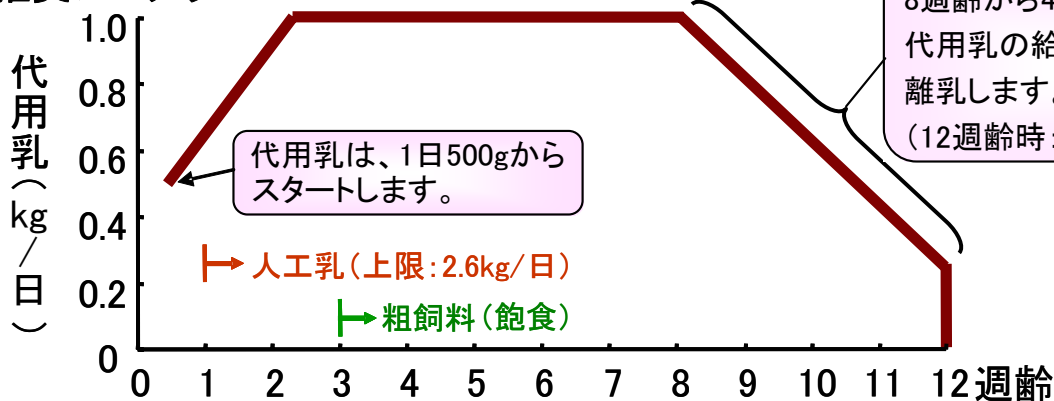


図2 期間別にみた1日あたり増体量

■離乳の推奨プログラム



【技術の活用】 発育停滞を防ぐ子牛の育成方法として普及します。

代用乳は1日2回に分けて給与します。1週齢から人工乳を、3週齢から粗飼料(チモシー乾草)を給与します。